

論 点 (案)

1. 社会や学校の環境変化に対応した献血推進方策

- ① 高校生献血のあり方
 - 献血体験以外の有効な啓発手段は考えられないか
- ② 地域における献血のあり方
 - ドナーの年齢層、地域の特性により、献血推進方策が異なるのではないか
 - 献血バスの効率的な運用方法
- ③ 学校教育における啓発
- ④ メディア等を活用した広報戦略のあり方
 - 若年層個人に有効にアピールする広報戦略
 - 年齢層・地域の特性に対応した具体的広報戦略
 - 献血血液の使用状況の情報提供のあり方
- ⑤ 200 mL 献血の今後のあり方

2. 採血基準の見直し

献血推進のための環境整備として以下の採血基準の見直しは考えられないか

→ ワーキンググループを設置し、個別の見直し案についてエビデンスの検証等を行い、安全に施行可能かどうか等を検討

- ① 400 mL 採血、成分採血の下限年齢の見直し
 - ・ 「18歳～」→「17歳～」又は「16歳～」と見直すべきか
- ② 血小板成分採血の上限年齢の見直し
 - ・ 「～54歳」を引き上げるべきか
- ③ 採血基準項目の「血液比重又は血色素量」を「血色素量」に改められないか
- ④ 年間総採血量、年間採血回数、採血間隔の見直しについて
 - ・ 400 mL の年間採血回数：「男性3回以内」→「男性4回以内」など
- ⑤ 男性の血色素量最低値を見直すべきか
 - ・ 現行の「12.5 g/dL」→「13.0 g/dL」など
- ⑥ 未成年者のインフォームドコンセント、ドナーの安全対策についてどう考えるか(海外との比較を念頭に)
- ⑦ その他見直しが必要な事項

3. その他

- ① 注射時の「痛み」を和らげる方策
 - ・ 針を細くすることは不可能か
 - ・ 薬剤などにより痛みを和らげる方法はないか
- ② 今後の課題